



特定非営利活動法人
日本国際ボランティアセンター
東京事務所
〒110-8605 東京都台東区東上野1-20-6（丸幸ビル6F）
Tel. 03-3834-2388 Fax. 03-3835-0519
HEADQUARTERS
6F Maruko Bldg. 1-20-6 Higashiueno Taito-ku Tokyo 110-8605 Japan

2005年10月19日

インド・カシミール地方でも支援を開始しました

パキスタン地震被災地 調査・支援レポート

10月8日にパキスタンで発生した大地震に対し、日本国際ボランティアセンター（JVC）は、甚大な被害を受けたパキスタン国内とインド・カシミール地方において緊急支援を開始しました。現在スタッフ2名がパキスタンとインドにて現地NGOとの連携のもと支援活動を行なっています。

特にインドでは寒さが本格化し雪が降り始めているため、雪や風から身を守るための仮設住宅の建設が急務となっています。現地ではJVCスタッフ下田寛典が調査・支援活動にあたっています。

【インド・カシミール地方での支援内容】

被害の大きいウリの3つの村にて、雪・風から身を守るのに必要な仮設住宅を建設するための資材と、毛布・ストーブの支援を開始しました。

1世帯あたり約17,500円 × 60～70世帯分

トタン板22枚、防水シート21m²、釘4kg、金具3kg、ストーブ1台の組合せ

JVCではインド支援・第一弾として上記の支援を開始しました。

この活動のための緊急募金を呼びかけています。皆様のご協力をお願いいたします。

郵便口座 00190-9-27495 「JVC 東京事務所」

通信欄に「パキスタン地震」とお書き添えください。

特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター（JVC）

〒110-8605 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル6F

TEL 03-3834-2388 FAX 03-3835-0519

代表理事 熊岡 路矢

広報担当 広瀬 哲子

info@ngo-jvc.net

<次ページ詳細>

インド・カシミール地方支援 詳細(10月17日現在)

JVC 下田 寛典(インド派遣中)

強風、降雪に耐えられる仮設住宅を。

JVCは地元NGO「JKCCS (Jammu & Kashmir Coalition of Civil Society)」「JKYF(Jammu & Kashmir Yateem Foundation)」と協力し、ウリのIsham,Nawarunda,Dardkod の3つの村に仮設住宅の建設の支援を行う。テントではなく仮設住宅にしたのは、強風、降雪を数週間後に控え、テントではそれらに耐えることができないからだ。またこの地域の寒さをしのぐには暖房器具が必要で、現地の事情を考えると薪ストーブがもっとも有力な選択肢だ。布やビニールのテントでは、薪ストーブを使おうとすると火事の危険性がある。まずは、この村の正確な世帯数と家族構成の調査を行い、同時に仮設住宅のための建材を調達する。



降雪に耐えられるトタン板の仮設住宅が必要だ

降雪地から町へ逃れてくるが、テントも仮設住宅もない。

カシミール地方ウリ Salamabad では建物は全壊し、救援物資の中でも特にテント(もしくは仮設住宅)が圧倒的に不足している。道端で一人佇んでいた少女に話を聞いた。

Roma Shahin(ルーマ シャヒーン)ちゃん 12歳(右写真)

「私の村はここから歩いて3時間くらいのところにある Isham という所なの。学校で勉強していたとき、突然強い揺れを感じて、すぐに外に出たわ。お父さんは農民で、小麦や豆、あとは羊を飼っていたの。Isham は、もう雪が降っていて20センチくらいは積もっていたので、私は家を失ったから、雪の降っていないここまで歩いてきたの。お父さんは今、救援物資をもらいに行っていて、私はここで待ってるの。普段はお米と野菜とパン、チャイ、それと時々、マトンも食べるけれど、今は車でやってくるひとが窓から投げてくれる食料をもらっている。今日は、チャバティーをもらったの。早く村に戻りたいけど、家がないから戻れない。早く学校に行きたい。」



道に佇む家族。(右: JVC下田)

JVCのホームページにて、パキスタン支援状況を含めて詳細を掲載しています

<http://www.ngo-jvc.net>